

③障がい福祉サービス等事業者調査票

調査票 B

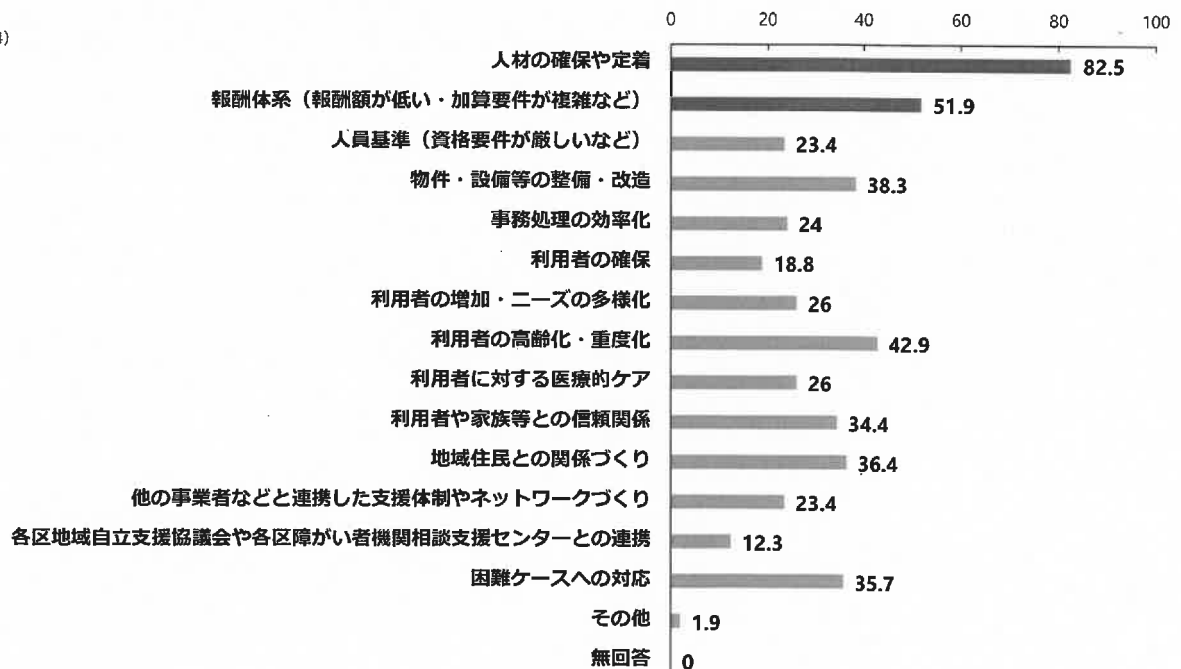
※回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

調査票 B の結果概要（1）

問3 課題と思うこと（居住系サービス）

- 「人材の確保や定着」（82.5%）が最も多く、次いで「報酬体系」（51.9%）となっている。

(N=154)

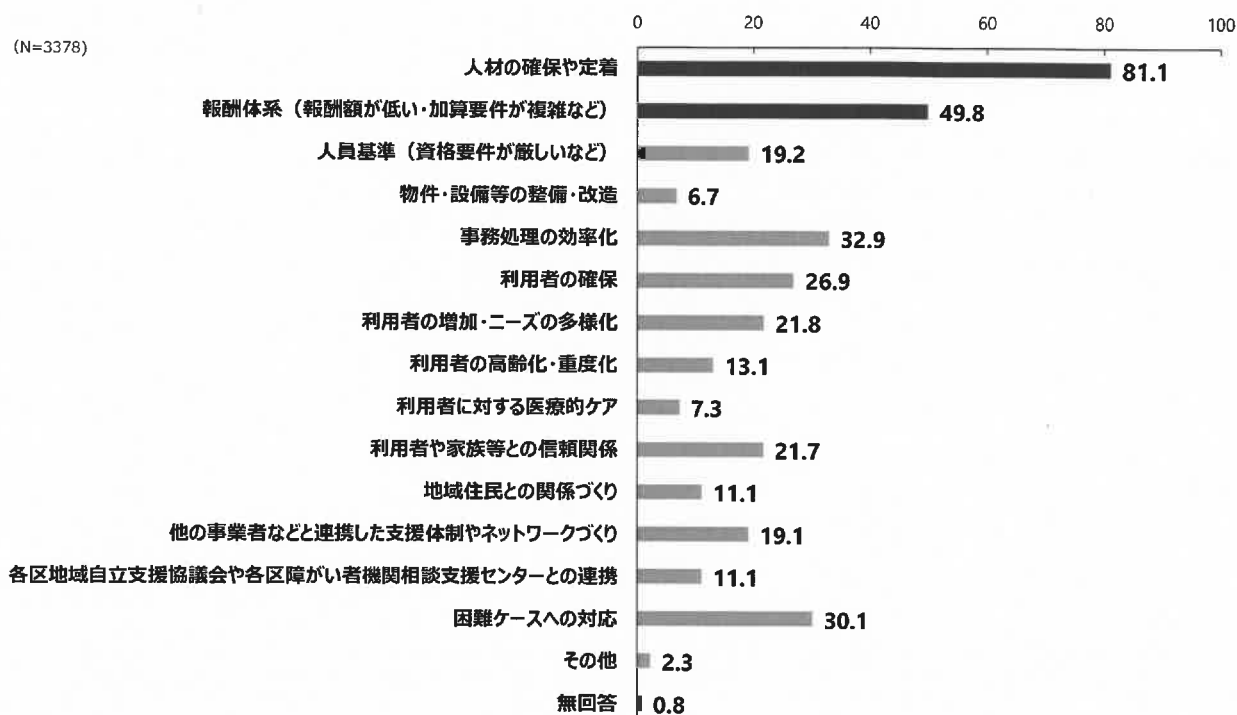


調査票 B の結果概要 (2)

点字208頁
上段

問3 課題と思うこと (訪問系・短期入所・日中活動系サービス)

- 「人材の確保や定着」(81.1%) が最も多く、次いで「報酬体系」(49.8%) となっている。



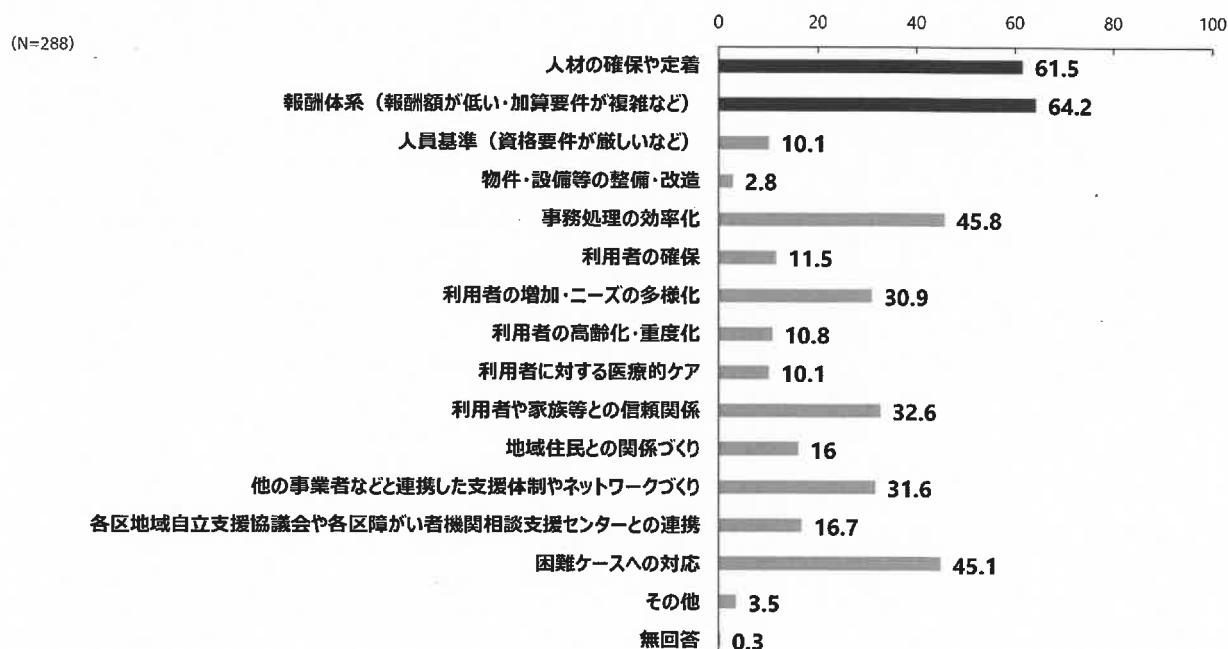
51

調査票 B の結果概要 (3)

点字210頁
上段

問3 課題と思うこと (相談支援系サービス)

- 「報酬体系 (報酬が低いなど)」(64.2%) が最も多く、次いで「人材の確保や定着」(61.5%) となっている。



52

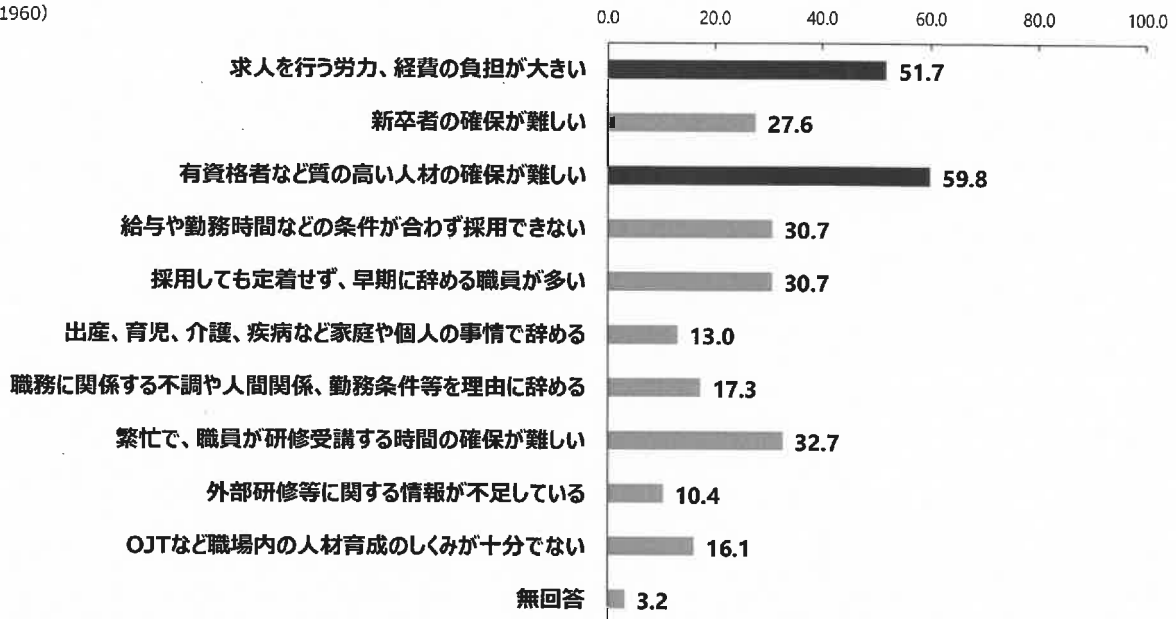
調査票 B の結果概要 (4)

点字212頁
上段

問5② 人材確保・定着・育成に関して、課題であると感じていること

- 「有資格者など質の高い人材の確保が難しい」 (59.8%) と最も多く、次いで「求人を行う労力、経済の負担が大きい」 (51.7%) となっている。

(N=1960)



53

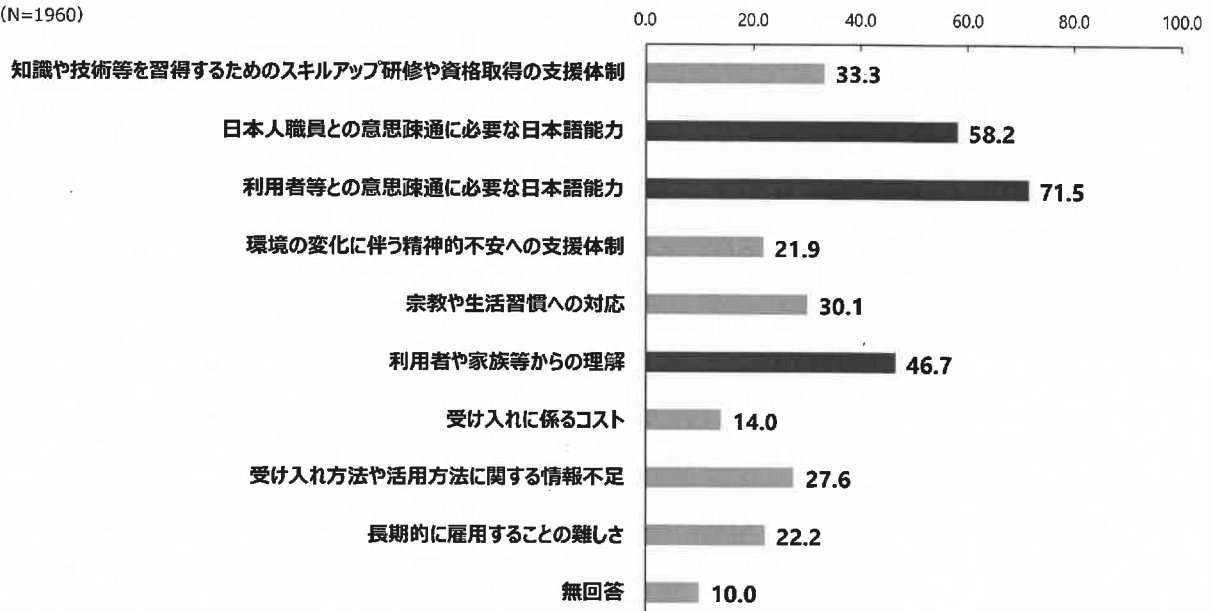
調査票 B の結果概要 (5)

点字214頁
上段

問6② 外国人人材を受け入れるにあたっての課題

- 「利用者等との意思疎通に必要な日本語能力」 (59.8%) と最も多く、次いで「日本人職員との意思疎通に必要な日本語能力」 (58.2%)、「利用者や家族等からの理解」 (46.7%) となっている。

(N=1960)



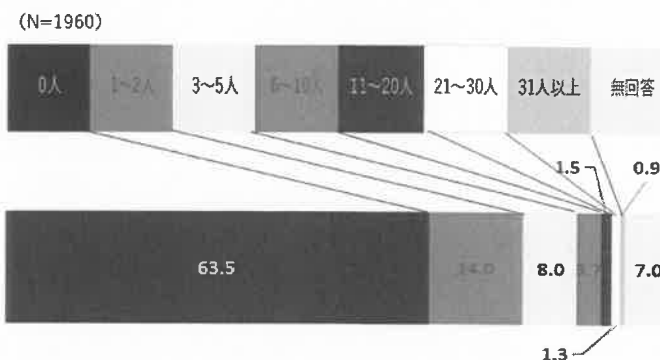
54

調査票 B の結果概要 (6)

点字215頁
下段

問14 医療的ケアの必要な方の利用者数

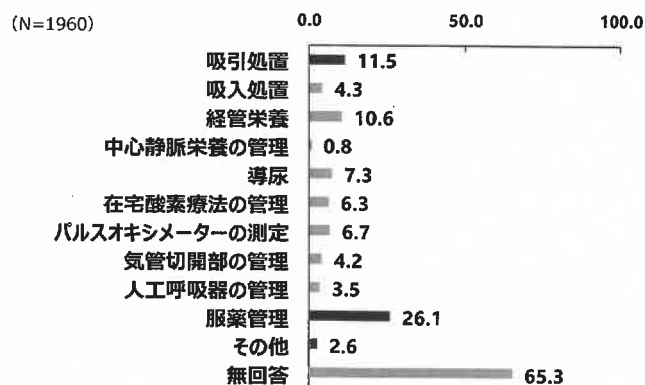
- 約3割の事業所が1人以上を回答している。



点字216頁
下段

問15 利用者が必要としている医療的ケア

- 「服薬管理」(26.1%) が最も多く、次いで「吸引処置」(11.5%) となっている。



点字218頁
上段

④ 大阪市発達障がい者支援センター ・ 発達障がい児専門療育機関 利用者アンケート

調査票 C

※ 回答比率は、各設問の回答者数 (N) を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

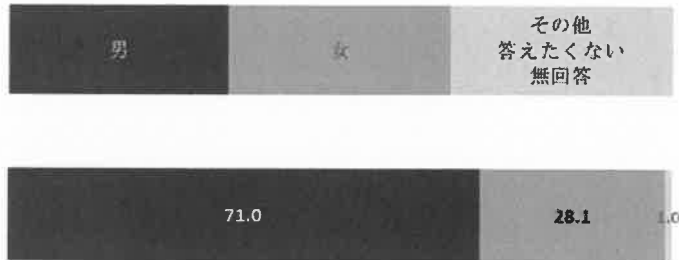
調査票Cの結果概要 (1)

点字218頁
中段

問2 性別

- 「男性」(71.0%)、「女性」(28.1%)となっている。

(N=210)

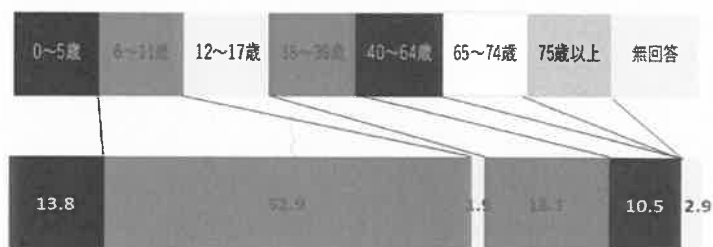


点字219頁
上段

問3 満年齢

- 「6歳～11歳」(52.9%)が最も多く、次いで「18～39歳」(18.1%)となっている。

(N=210)



点字219頁下段

前回調査結果

- 0～5歳 18.1
- 6～17歳 56.2
- 18～39歳 17.5
- 40～64歳 6.9
- 65歳以上 0
- 無回答 2.9

57

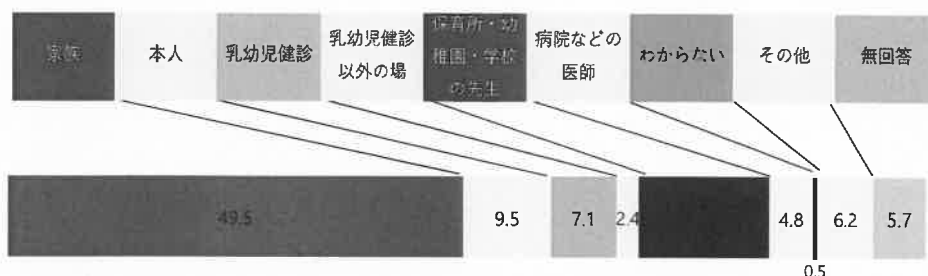
調査票Cの結果概要 (2)

点字220頁
中段

問28① 発達障がいの可能性があると気づいた方

- 「家族」(49.5%)が最も多く、次いで「保育所・幼稚園・学校の先生」(14.3%)となっている。

(N=210)



点字221頁中段

前回調査結果 (回答の多いもの)

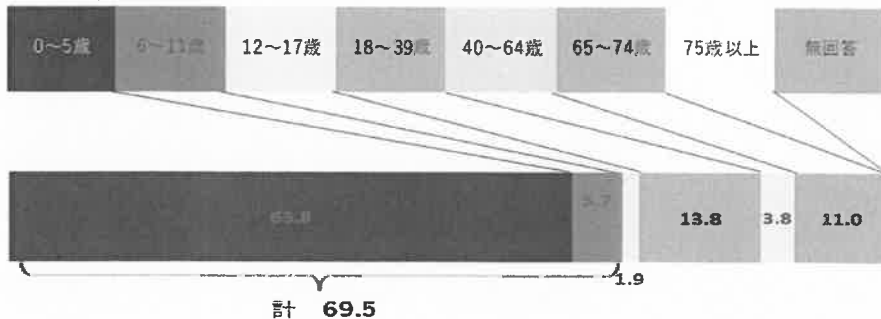
- 家族 47.5
- 乳幼児健診 13.1
- 病院などの医師 8.8

点字222頁
上段

問28② 発達障がいの可能性があると気づいた年齢

- 約7割が、11歳までに発達障がいの可能性に気づいている。

(N=210)



58

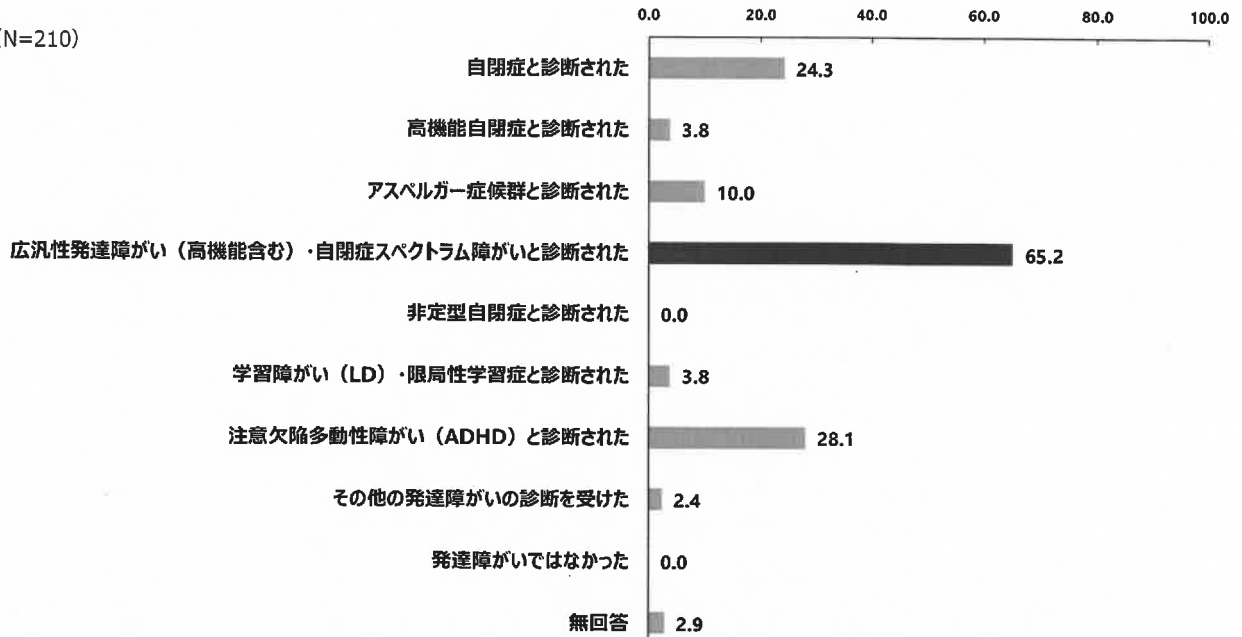
調査票Cの結果概要 (3)

点字223頁
上段

問30② 発達障がいの診断名

- 「広汎性発達障がい（高機能含む）・自閉症スペクトラム障がいと診断された」(65.2%) が最も多い。

(N=210)



点字224頁中段

前回調査結果（回答の多いもの）

- 広汎性発達障がい（高機能含む）・自閉症スペクトラム障がいと診断された 72.3
- 自閉症と診断された 19.6
- AD/HD（注意欠陥/多動性障がい）と診断された 14.2

59

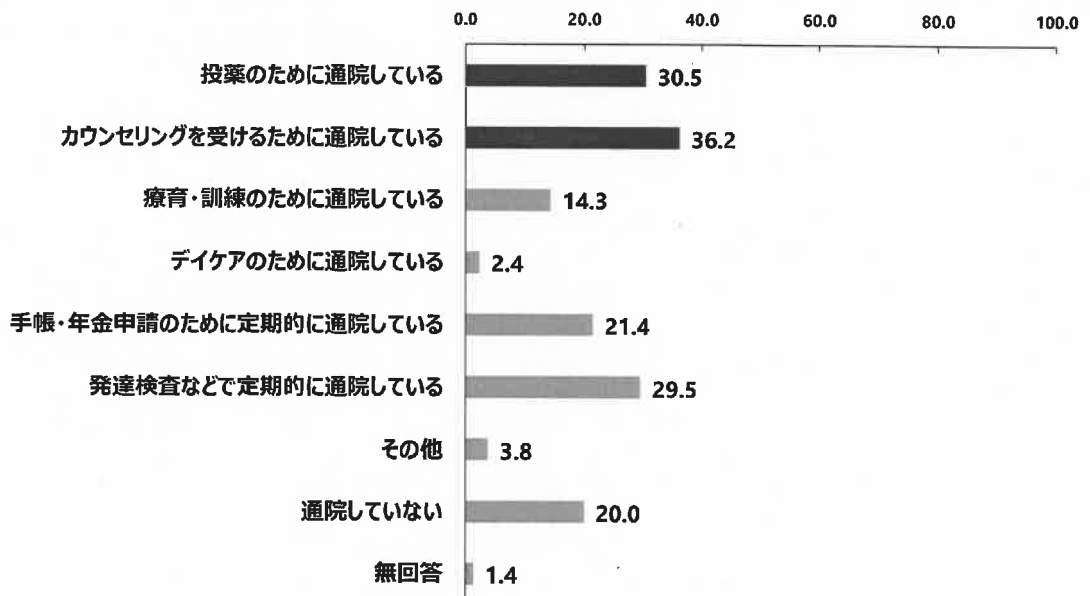
調査票Cの結果概要 (4)

点字225頁
上段

問31 現在の通院状況

- 「カウンセリングを受けるために通院している」(36.2%)、「投薬のために通院している」に通院している」(30.5%) が最も多い。

(N=210)



点字226頁中段

前回調査結果（回答の多いもの）

- カウンセリングを受けるために通院している 27.5
- 発達検査などで定期的に通院している 27.5
- 投薬のために通院している 21.9

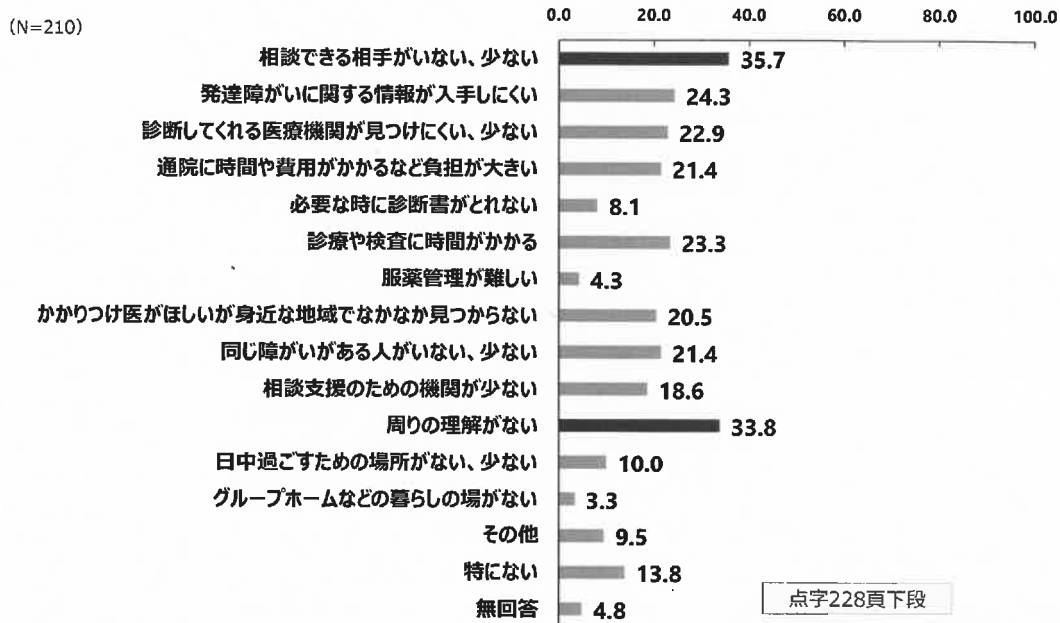
60

調査票Cの結果概要 (5)

点字226頁
下段

問32 発達障がい困っていること

- 「相談できる相手がない、少ない」が最も多く (35.7%)、次いで「周りの理解がない」 (33.8%) となっている。



点字228頁下段

前回調査結果 (回答の多いもの)

- 周りの理解がない 44.4
- 相談できる相手がない、少ない 36.3
- 発達障がいに関する情報が入手にくい 30.0

61

点字230頁
上段

⑤障がい者 (児) 基礎調査票 (施設入所者用)

調査票D 1

※ 回答比率は、各設問の回答者数 (N) を母数とした百分率で示し、小数点第 2 位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

62

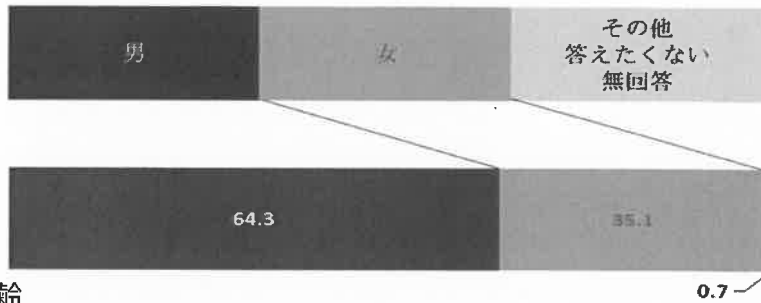
調査票D 1の結果概要 (1)

点字230頁
中段

問2 性別

- 「男性」(64.3%)、「女性」(35.1%)となっている。

(N=1044)

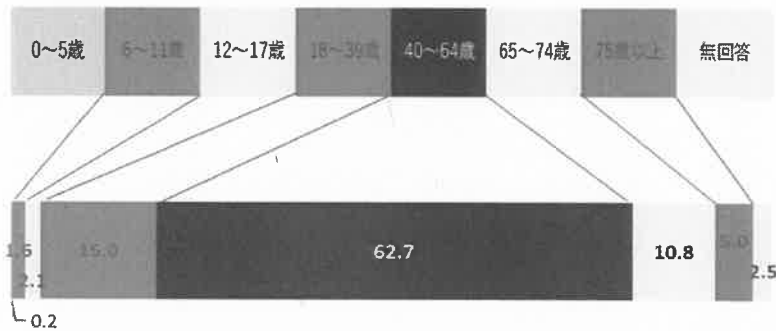


点字230頁
下段

問3 満年齢

- 「40～64歳」(62.7%)が最も多い。

(N=1044)



63

調査票D 1の結果概要 (2)

点字231頁
中段

問11 入所前の生活

- 「別の施設に入所していた」(28.2%)が最も多い。

(N=1044)

保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校、大学などに通っていた

一般企業、自営業、在宅勤務などで働いていた

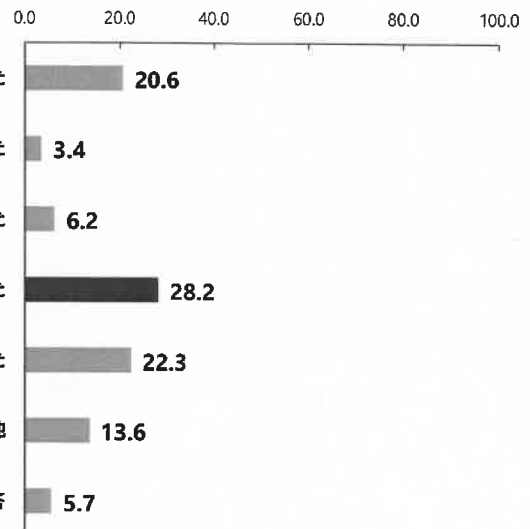
病院に入院していた

別の施設に入所していた

ほとんど自宅で過ごしていた

その他

無回答



点字232頁中段

前回調査結果 (回答の多いもの)

- 別の施設に入所していた 30.1

- ほとんど家で過ごしていた 22.9

- 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校、大学などに通っていた 21.0

64

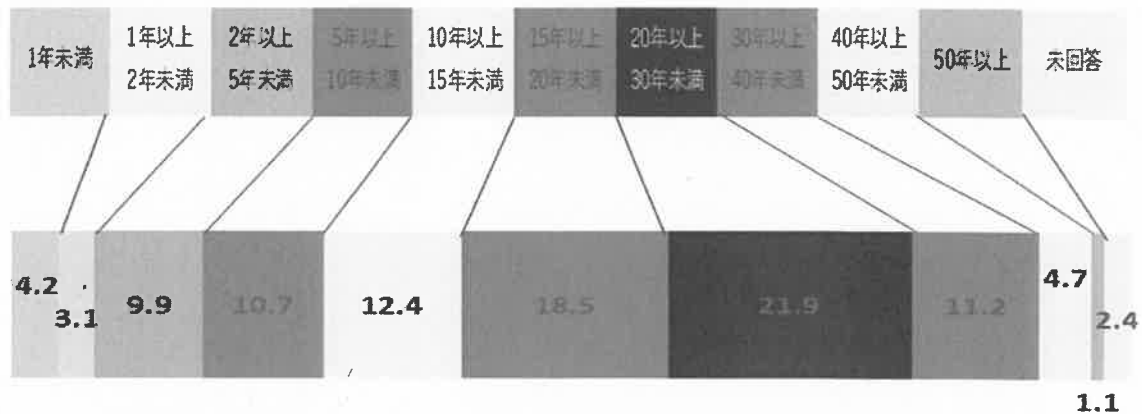
調査票D1の結果概要 (3)

点字233頁
上段

問12 入所期間

- 「20年以上30年未満」(21.9%)が最も多く、10年以上の合計では約7割となっている。

(N=1044)



点字234頁上段

前回調査結果

- 入所期間が10年以上の方の割合 67.7

65

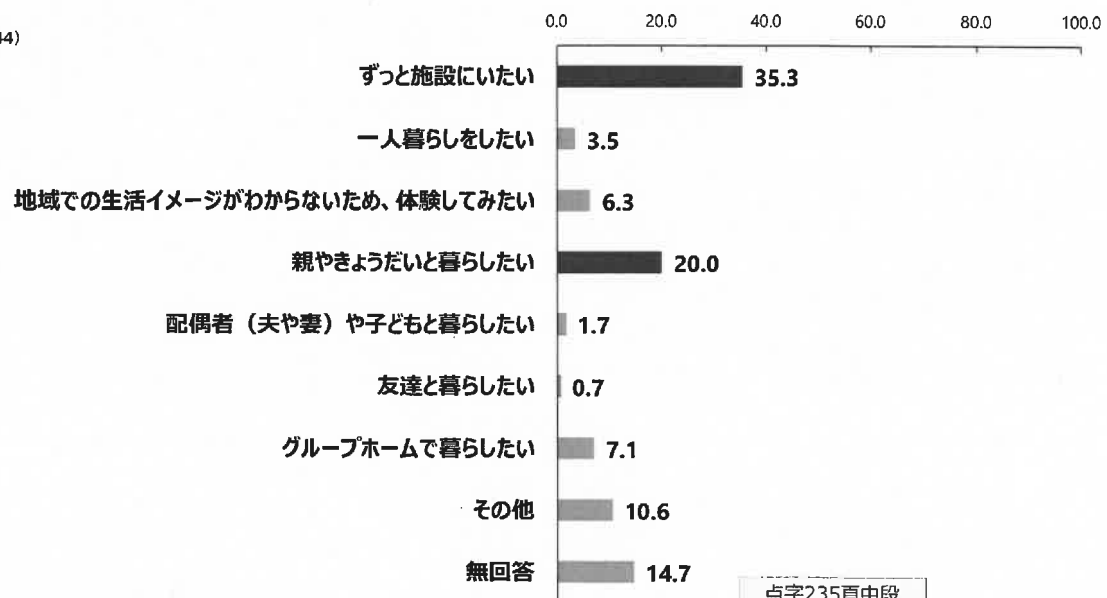
調査票D1の結果概要 (4)

点字234頁
中段

問19 地域移行したいと思うか

- 「ずっと施設にいたい」(35.3%)が最も多く、次いで「親やきょうだいと暮らしたい」(20.0%)となっている。

(N=1044)



点字235頁中段

前回調査結果(回答の多いもの)

- ずっと施設にいたい 33.2
- 親やきょうだいと暮らしたい 23.8
- グループホームやケアホームで暮らしたい 15.7

66

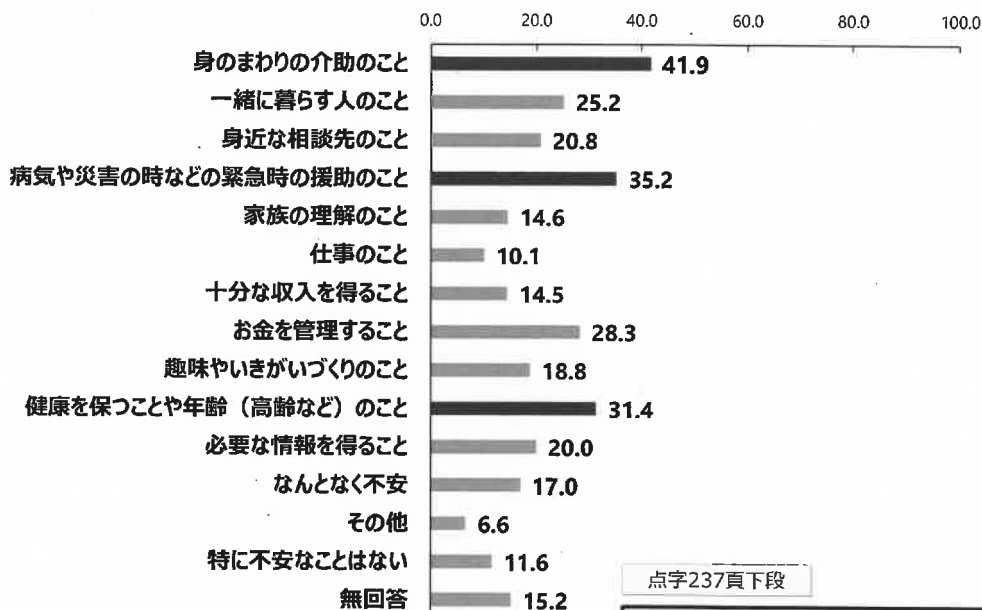
調査票D 1 の結果概要 (5)

点字236頁
上段

問21 地域移行で不安に思うこと

- 「身のまわりの介助のこと」(41.9%) が最も多く、次いで「病気や災害の時などの緊急時の援助のこと」(35.2%)、「健康を保つことや年齢(高齢など)のこと」(31.4%) となっている。

(N=1044)



点字237頁下段

前回調査結果(回答の多いもの)

- 身のまわりの介助のこと 45.9
- 健康を保つことや年齢(高齢など)のこと 37.4
- 病気や災害の時などの緊急時の援助のこと 37.1

67

点字239頁
上段

⑥障がい者(児)基礎調査票 (入所施設管理者用)

調査票D 2

※回答比率は、各設問の回答者数(N)を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

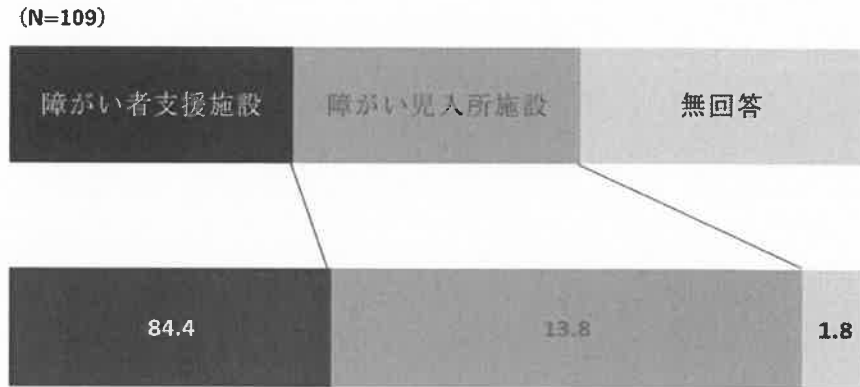
68

調査票D 2 の結果概要 (1)

点字239頁
中段

問2 施設の種別

- 「障がい者支援施設」(84.4%)、「障がい児入所施設」(13.8%)となっている。



69

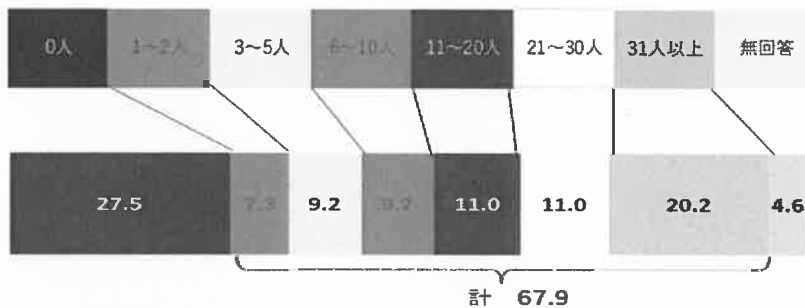
調査票D 2 の結果概要 (2)

点字240頁
上段

問7 強度行動障がいのある方の入所者数

- 7割弱の施設が1人以上を回答している。

(N=109)



点字240頁下段

前回調査結果

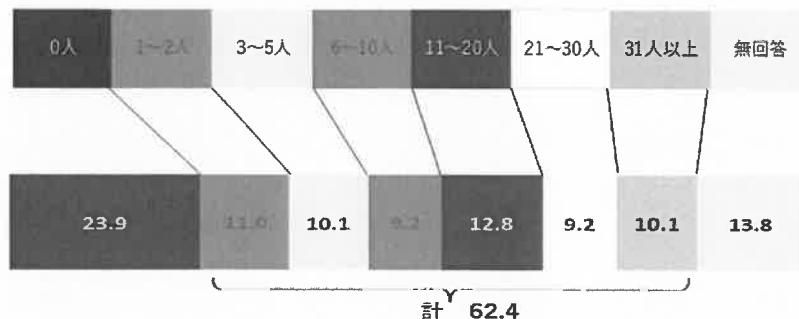
- 1人以上を回答した施設の割合 65.1

点字241頁
上段

問13 発達障がいのある方の入所者数

- 6割を超える施設が1人以上を回答している。

(N=109)



点字242頁上段

前回調査結果

- 1人以上を回答した施設の割合 65.2

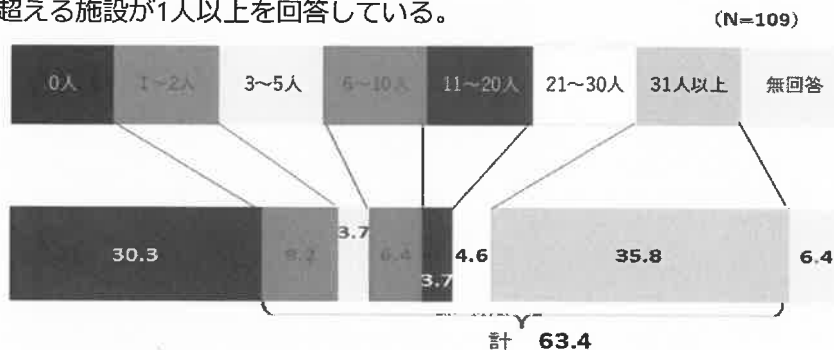
70

調査票D2の結果概要 (3)

点字242頁
中段

問16 医療的ケアの必要な方の入所者数

- 6割を超える施設が1人以上を回答している。

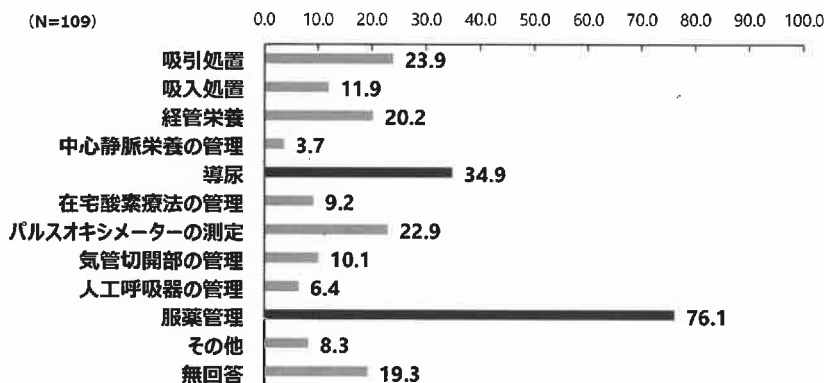


点字243頁上段

前回調査結果
● 1人以上を回答した施設の割合 62.4

点字243頁
中段

問17 入所者が必要としている医療的ケア



- 「服薬管理」(76.1%) が最も多く、次いで「導尿」(34.9%) となっている。

点字244頁中段

前回調査結果 (回答の多いもの)
● 服薬管理 66.1
● 導尿 34.9

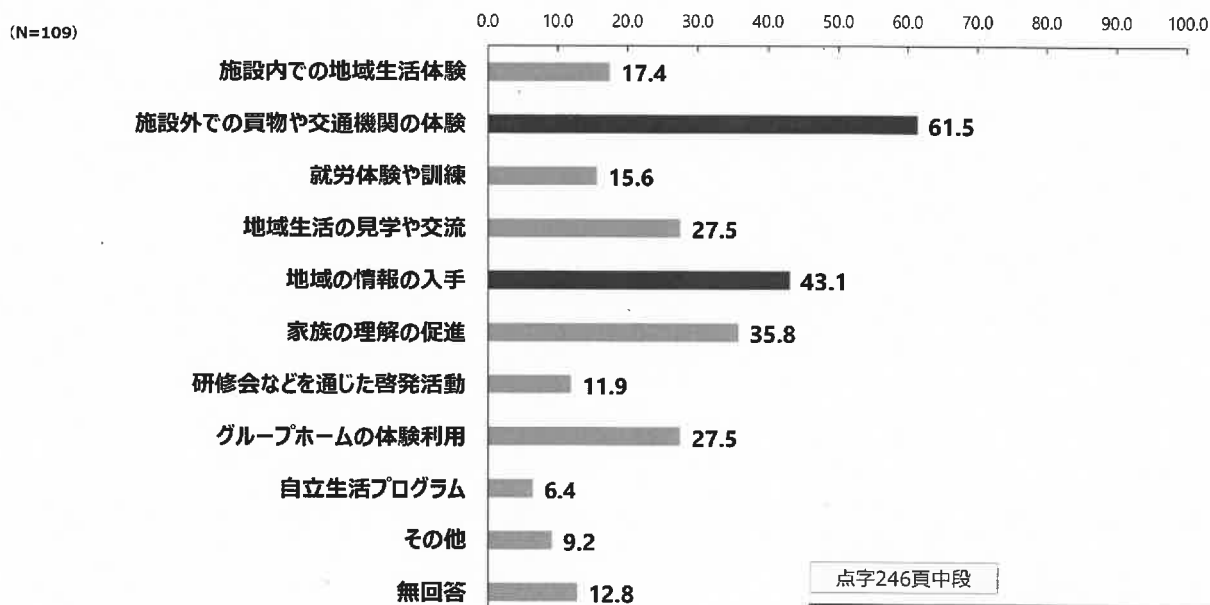
71

調査票D2の結果概要 (4)

点字245頁
上段

問24 地域移行に向けた取り組み内容

- 「施設外での買い物や交通機関の体験」(61.5%) が最も多く、次いで「地域の情報の入手」(43.1%) となっている。



点字246頁中段

前回調査結果 (回答の多いもの)
● 施設外での買い物や交通機関の体験 57.8
● 地域の情報の入手 42.2
● グループホーム、ケアホームの体験利用 36.7

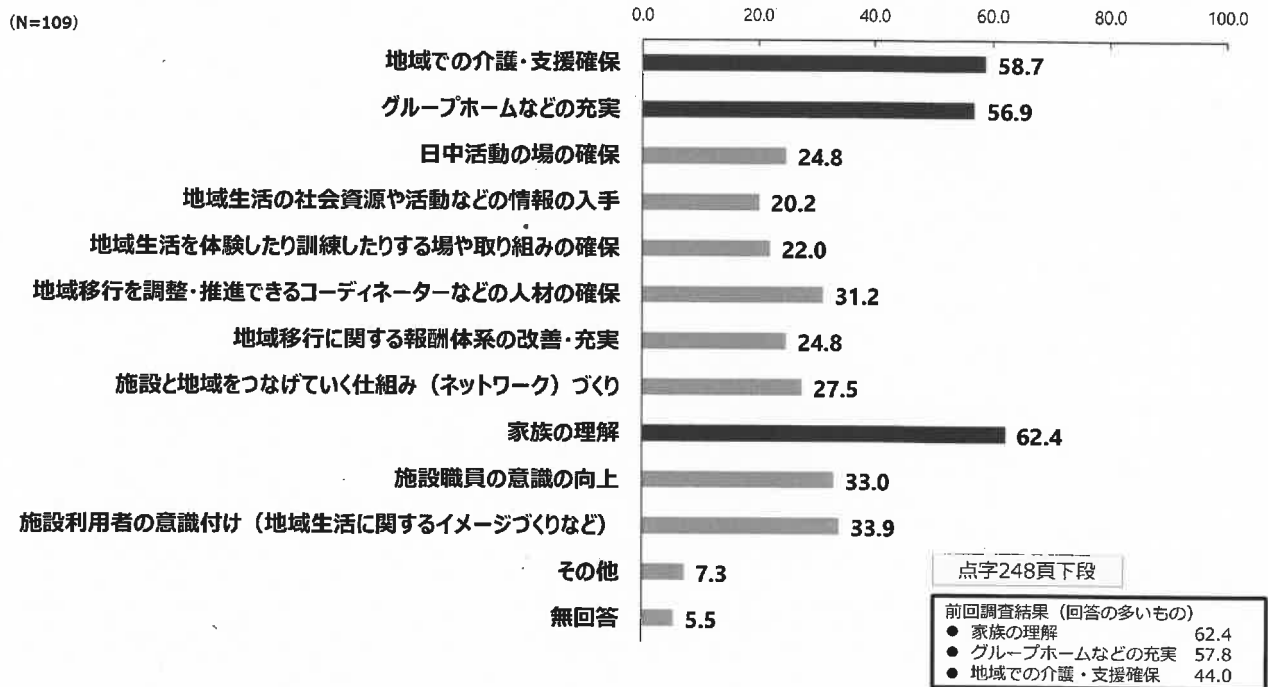
72

調査票D2の結果概要 (5)

点字247頁
上段

問25 地域移行を進めるうえでの課題

- 「家族の理解」(62.4%)が最も多く、次いで「地域での介護・支援確保」(58.7%)、「グループホームなどの充実」(56.9%)となっている。



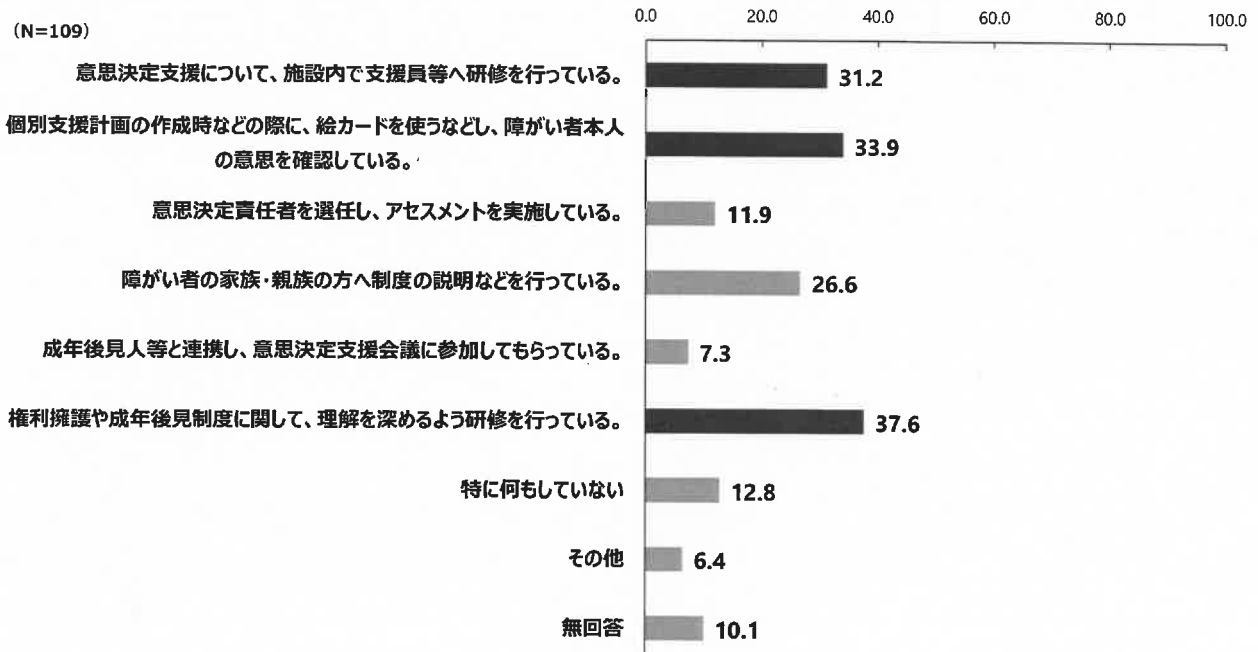
73

調査票D2の結果概要 (6)

点字249頁
上段

問34 意思決定支援について

- 「権利擁護や成年後見制度に関して、理解を深めるよう研修を行っている」(37.6%)が最も多く、次いで「個別支援計画の作成時などの際に、絵カードを使うなどし、障がい者本人の意思を確認している」(33.9%)、「意思決定支援について、施設内で支援員等へ研修を行っている」(31.2%)となっている。



74

⑦特定医療費（指定難病）助成 事業対象者基礎調査票

調査票E

※回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

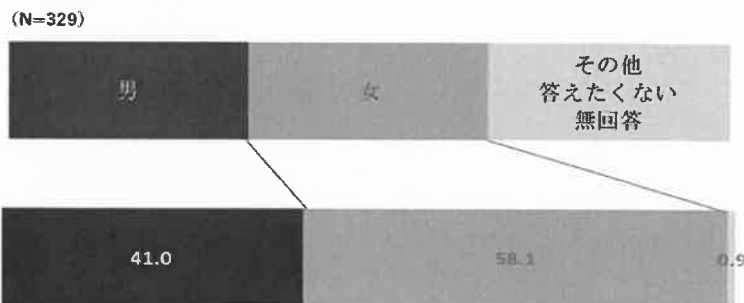
75

調査票Eの結果概要（1）

点字252頁
中段

問2 性別

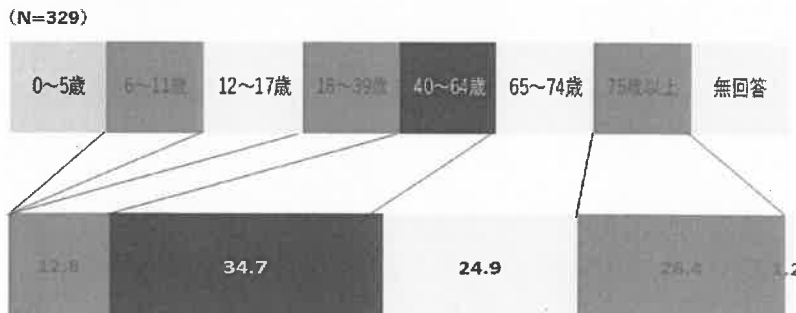
- 「男性」（41.0%）、「女性」（58.1%）となっている。



点字253頁
上段

問3 満年齢

- 約5割の方が65歳以上となっている。



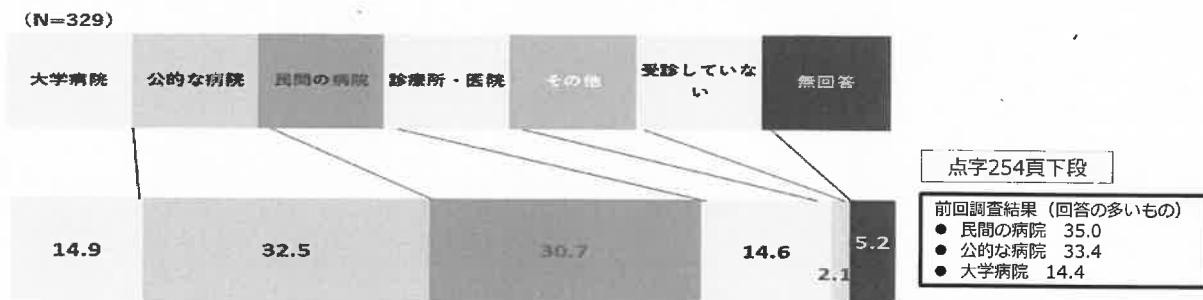
76

調査票Eの結果概要 (2)

点字254頁
上段

問12 主に受診している医療機関

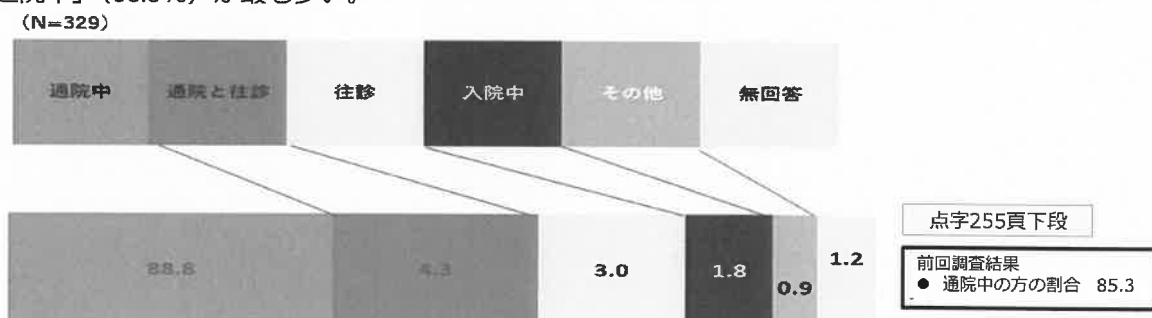
- 「公的な病院」(32.5%)が最も多く、次いで「民間の病院」(30.7%)となっている。



点字255頁
中段

問13 受診状況

- 「通院中」(88.8%)が最も多い。



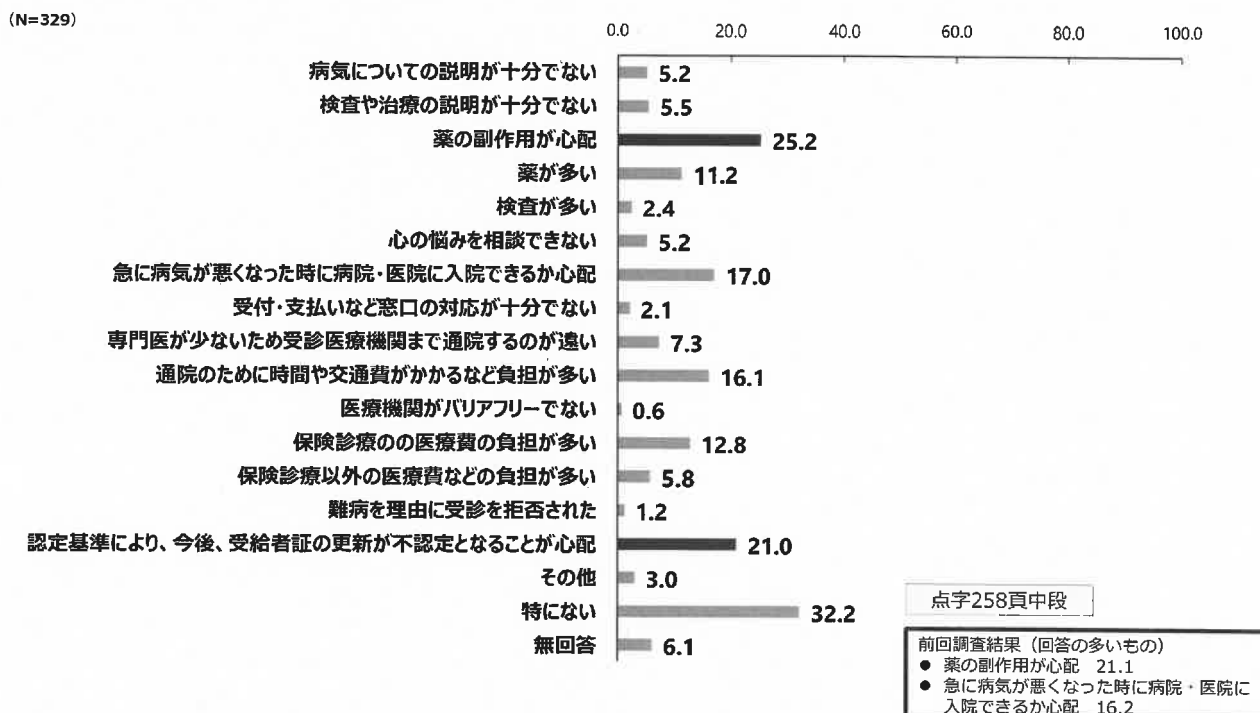
77

調査票Eの結果概要 (3)

点字256頁
上段

問16 診療についての困りごと

- 「薬の副作用が心配」(25.2%)、「認定基準により、今後、受給者証の更新が不認定になること」(21.0%)といった回答が多い。



78

⑧小児慢性特定疾病医療支援 事業対象者基礎調査票

調査票F

※回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

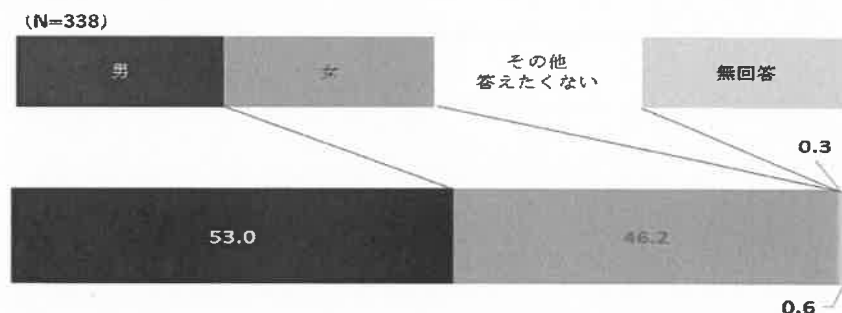
79

調査票Fの結果概要（1）

点字259頁
中段

問2 性別

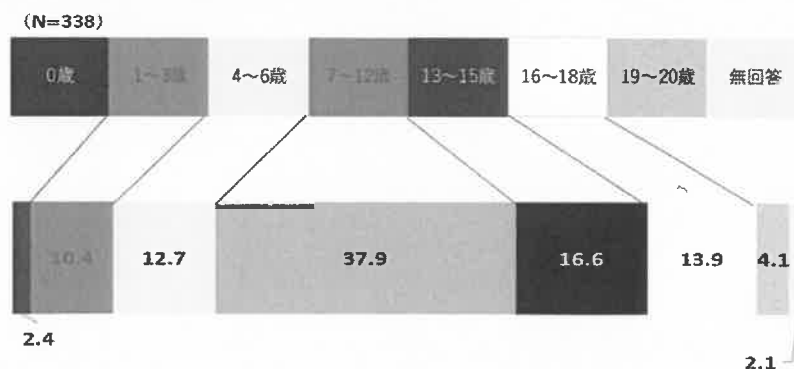
- 「男性」（53.0%）、「女性」（46.2%）となっている。



点字260頁
上段

問3 満年齢

- 「7歳～12歳」（37.9%）が最も多くなっている。



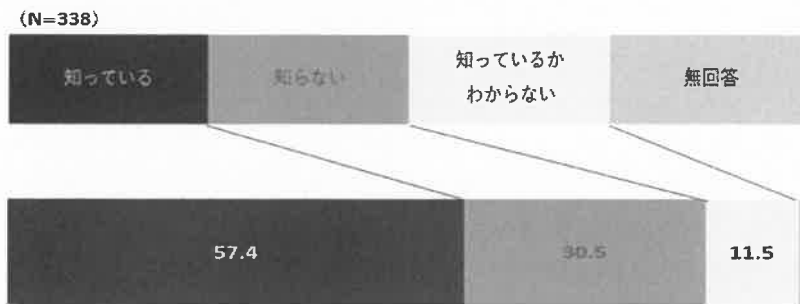
80

調査票Fの結果概要 (2)

点字261頁
上段

問8 自分の病名を認知しているか

- 6割近く (57.4%) が自分の病名を認知している。



点字261頁下段

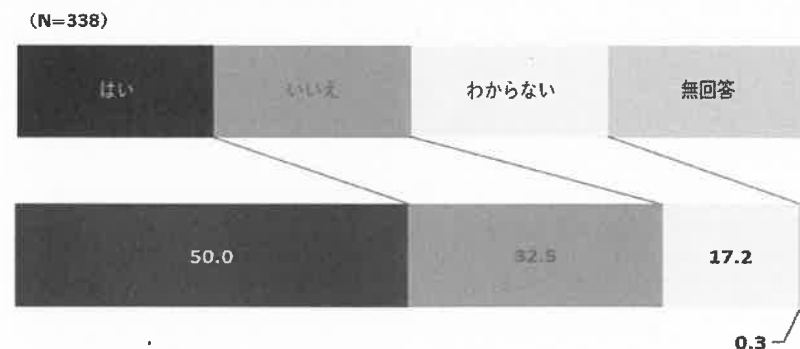
前回調査結果

- 知っている方の割合 51.0

点字262頁
上段

問9 自身の症状など、自分の意思を伝えることができるか

- 5割 (50.0%) が自分の意思を伝えることができる。



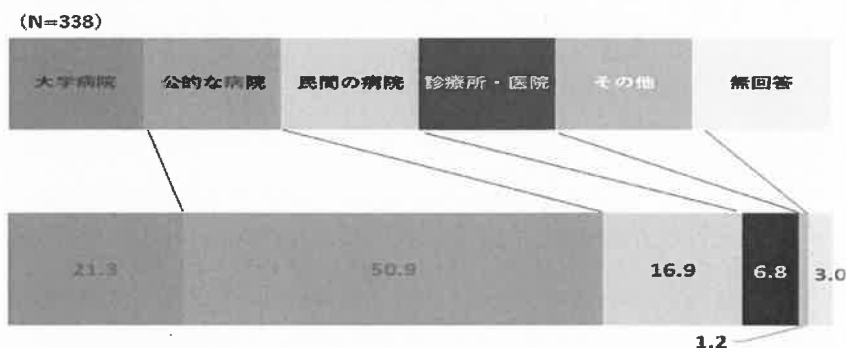
81

調査票Fの結果概要 (3)

点字262頁
下段

問10 主に受診している医療機関

- 「公的な病院」と回答した方が5割を超えている。



点字263頁中段

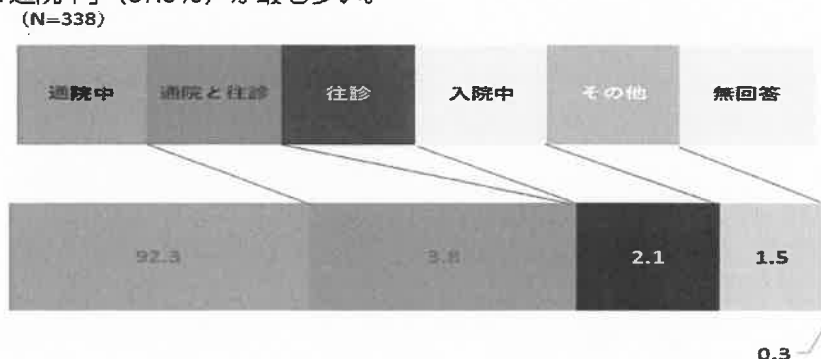
前回調査結果 (回答の多いもの)

- 公的な病院 55.5
- 大学病院 19.4
- 民間の病院 13.7

点字264頁
上段

問11 受診状況

- 「通院中」(87.8%) が最も多い。



点字264頁下段

前回調査結果

- 通院中の方の割合 87.8

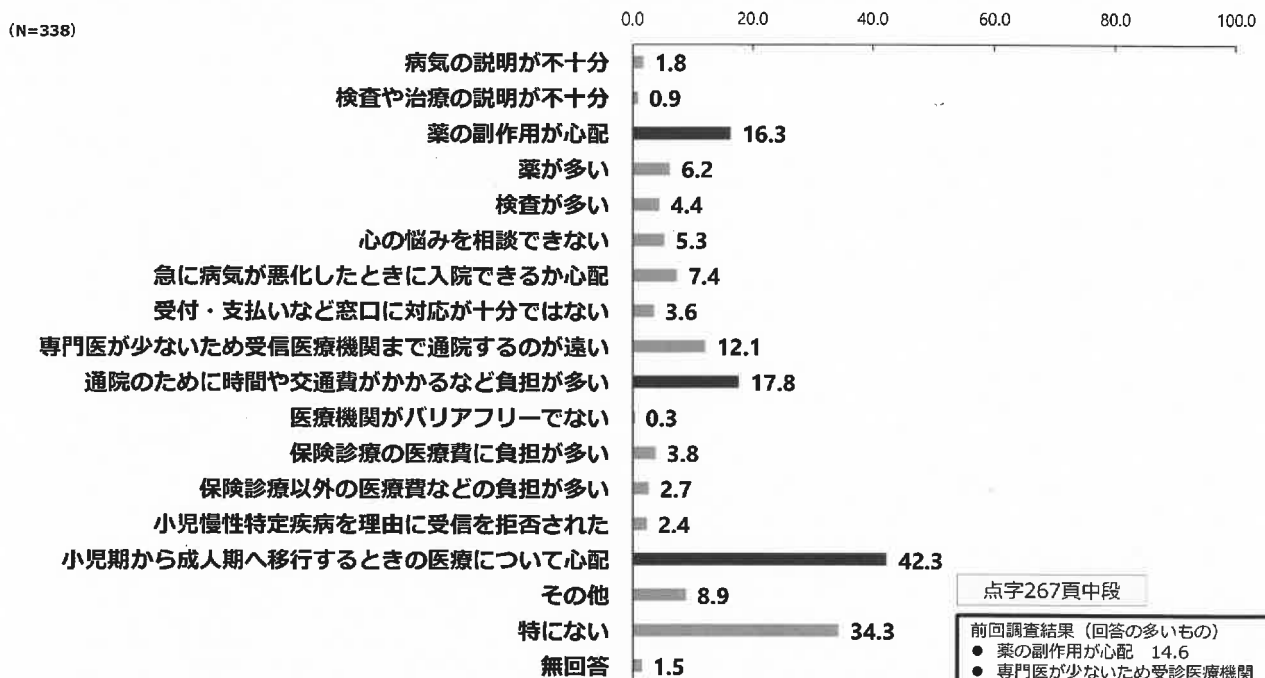
82

調査票Fの結果概要 (4)

点字265頁
上段

問13 診療についての困りごと

- 「小児期から成人期へ移行するときの医療について心配」 (42.3%)、「通院のために時間や交通費がかかるなど負担が多い」 (17.8%)、「薬の副作用が心配」 (16.3%) といった回答が多い。



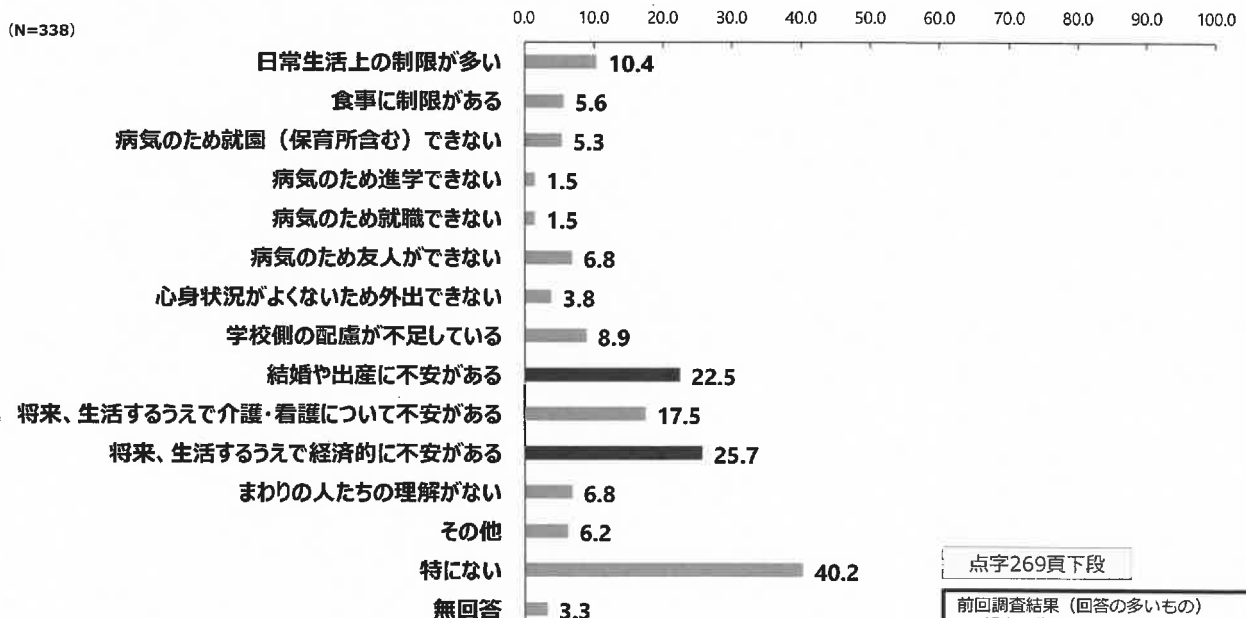
83

調査票Fの結果概要 (5)

点字268頁
上段

問29 日常生活での困りごと (こども)

- 「将来、生活するうえで経済的に不安がある」 (25.7%)、「結婚や出産に不安がある」 (22.5%) といった回答が多い。



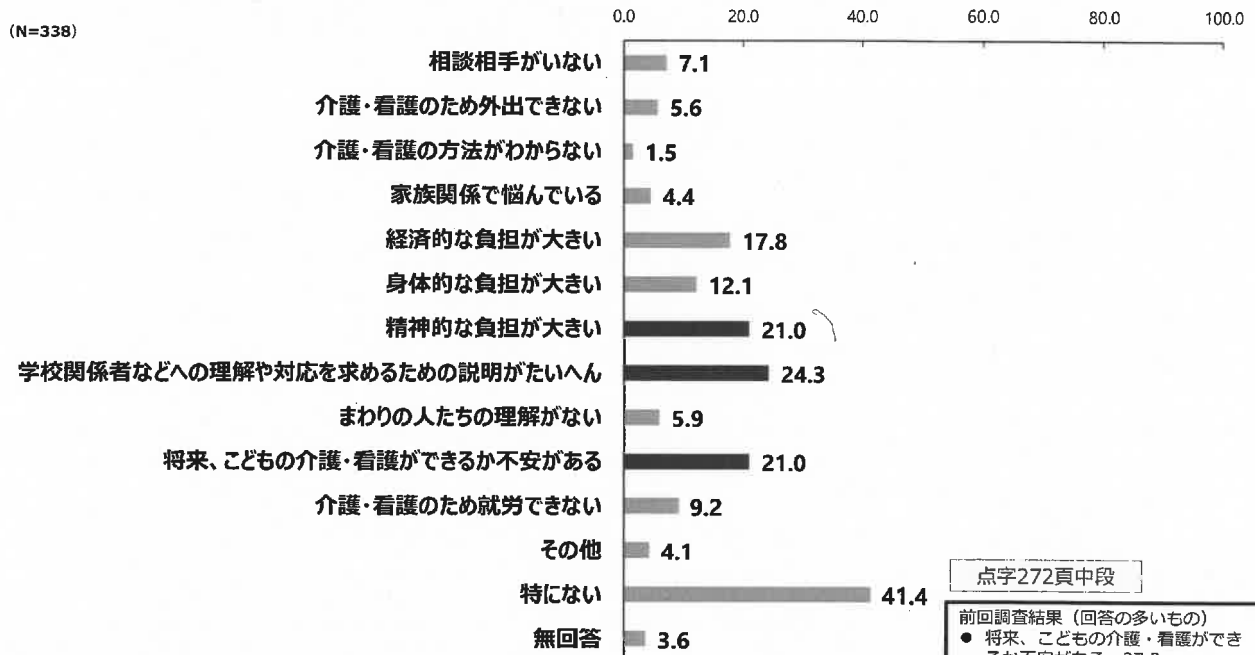
84

調査票Fの結果概要 (6)

点字270頁
中段

問29 日常生活での困りごと (保護者)

- 「学校関係者などへの理解や対応を求めるための説明がたいへん」 (24.3%) 「将来、こどもの介護・看護ができるか不安がある」 (21.0%) 「精神的な負担が大きい」 (21.0%) といった回答が多い。



85

点字273頁
上段

⑨医療的ケア児基礎調査票

調査票G

※回答比率は、各設問の回答者数 (N) を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合もある。

86

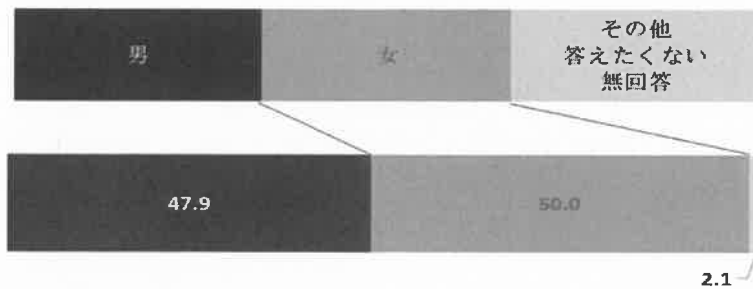
調査票Gの結果概要 (1)

点字273頁
中段

問2 性別

- 「男性」(47.9%)、「女性」(50.0%)となっている。

(N=144)

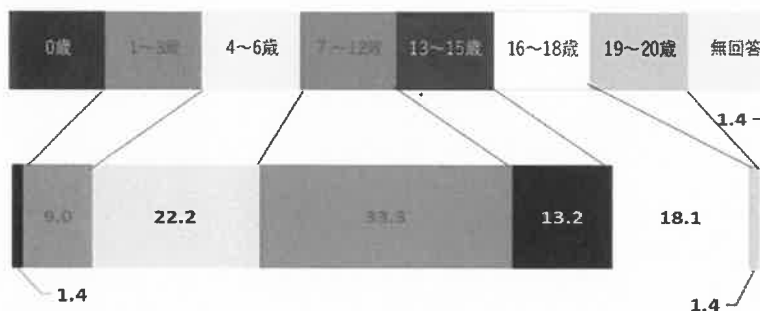


点字274頁
上段

問3 年齢

- 「7～12歳」(33.3%)と多く、次いで「4～6歳」(22.2%)となっている。

(N=144)



87

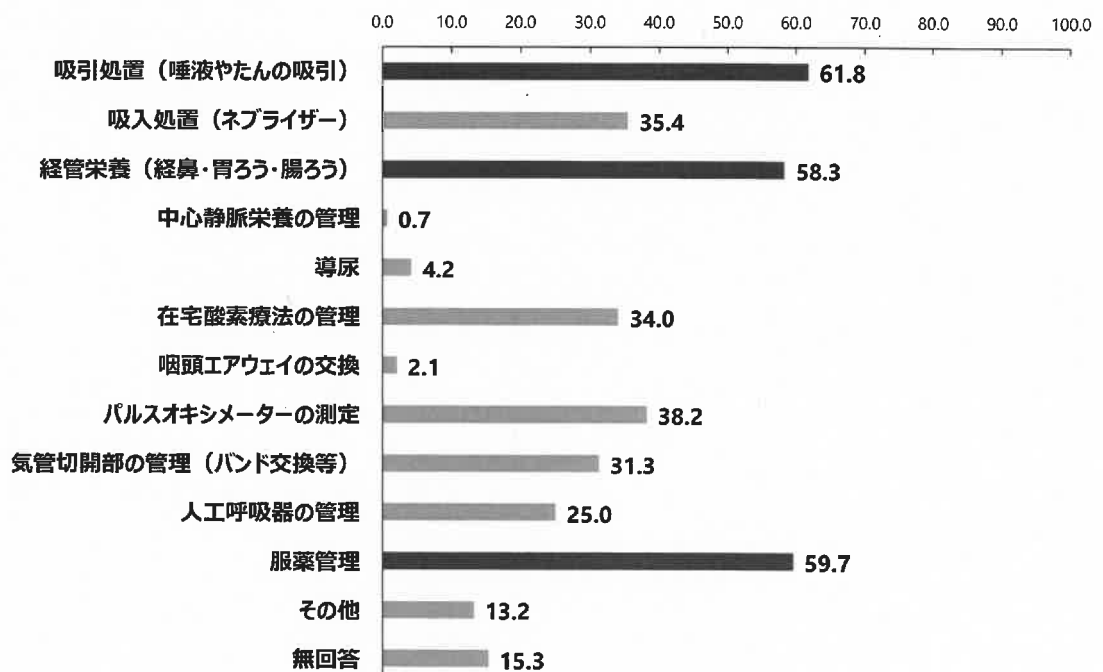
調査票Gの結果概要 (2)

点字275頁
上段

問7 必要とする医療的ケア

- 「吸引処置（唾液やたんの吸引）」(61.8%)が最も多く、次いで「服薬管理」(59.7%)、「経管栄養（経鼻・胃ろう・腸ろう）」(58.3%)となっている。

(N=144)



88

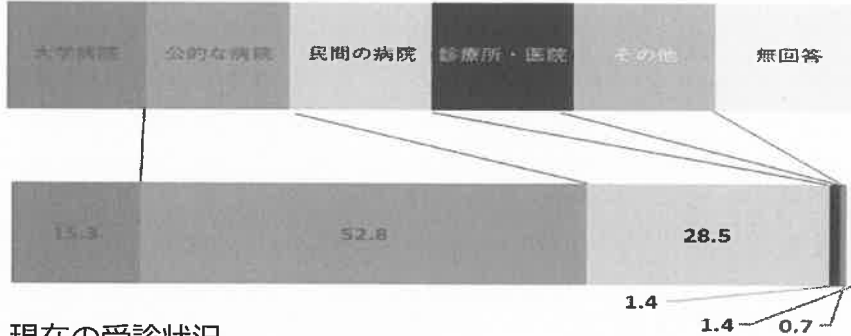
調査票Gの結果概要 (3)

点字276頁
中段

問8 現在、主にかかっている医療機関

- 「公的な病院」(52.8%)と答えたものが5割を超えている。

(N=144)

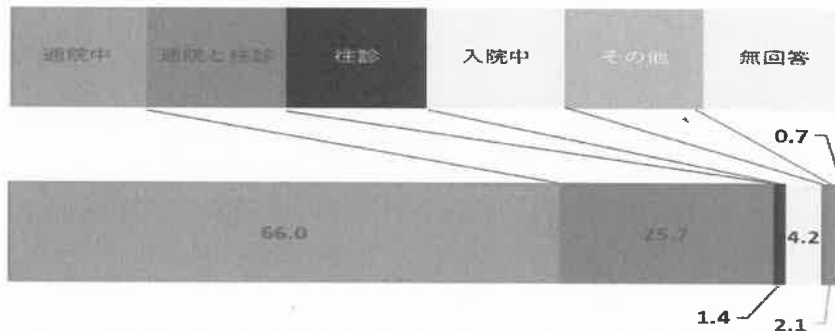


点字277頁
中段

問9 現在の受診状況

- 「通院中」(66.0%)と答えたものが6割を超えている。

(N=144)



89

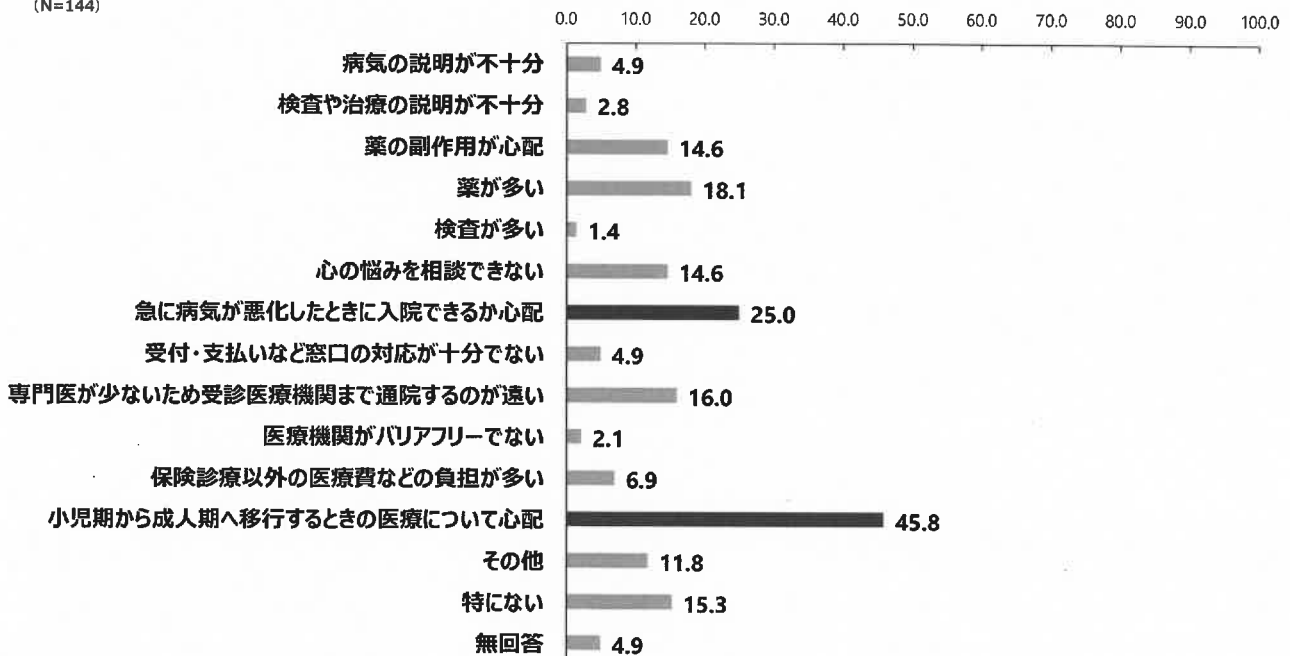
調査票Gの結果概要 (4)

点字278頁
上段

問14 医療に関して、困っていること

- 「小児期から成人期へ移行するときの医療について心配」(45.8%)が最も多く、次いで「急に病気が悪化したときに入院できるか心配」(25.0%)となっている。

(N=144)



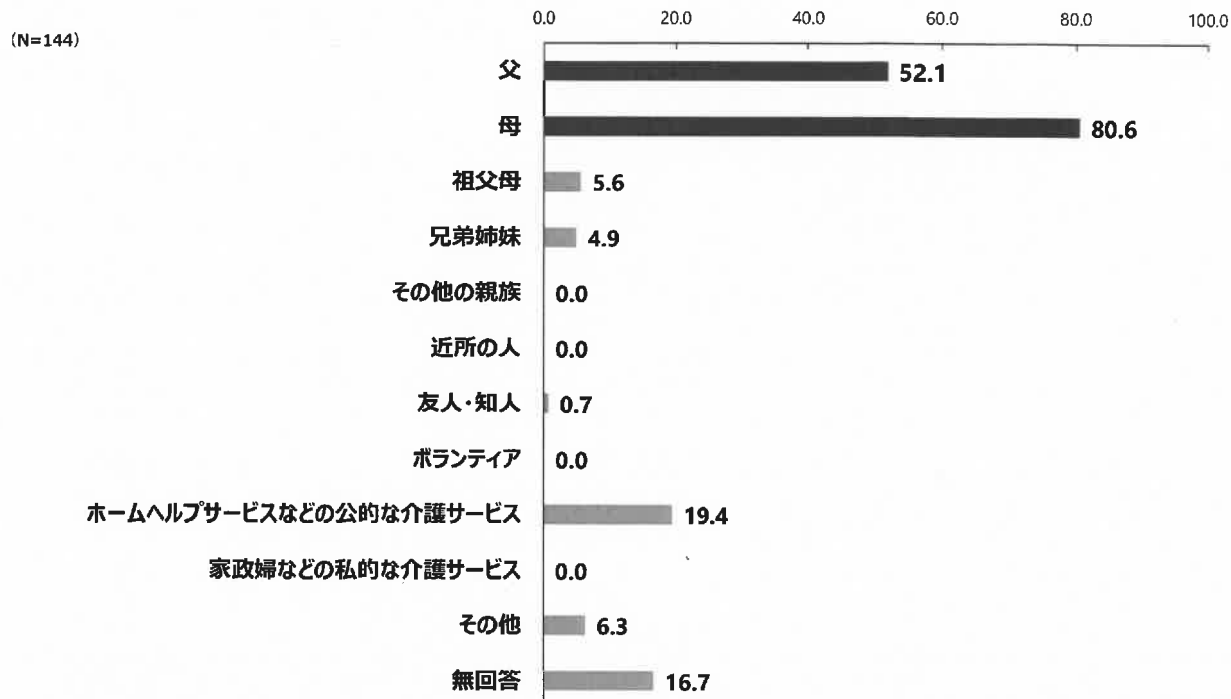
90

調査票Gの結果概要 (5)

点字280頁
上段

問16① 自宅で医療的ケアをしている方

- 「母」(80.6%)で最も多く、次いで「父」(52.1%)となっている。



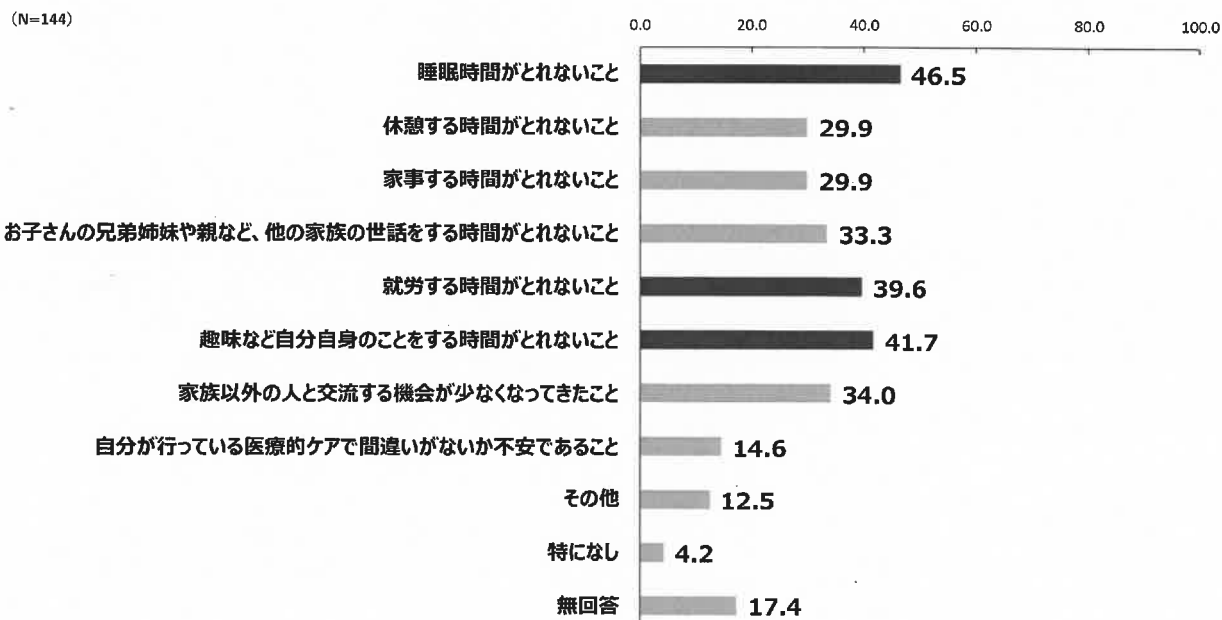
91

調査票Gの結果概要 (6)

点字281頁
中段

問19 医療的ケアをしている方の負担を感じているところ

- 「睡眠時間がとれないこと」(46.5%)が最も多く。次いで、「趣味など自分自身のことをする時間がとれない」(41.7%)、「就労する時間がとれない」(39.6%)となっている。



92